

# ほっぴ・ステップ・JUMP!

(保っ父) 1992・10・10

VOL. 16 発行 北海道の子どもと保父の会

## 保父の会 札幌マラソンに参加!

17th SAPPORO  
MARATHON  
RACE  
1992 10/4 Sun

保父会のみなさま、大会にむけてトレーニングしてますか? いよいよRACEは目前です。今年のおもいでに残す1日にしたいものですね。

保父会の集合時間 AM8:00  
(駐車場に限りがあるので)

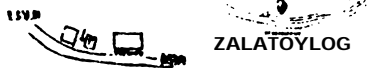
集合場所 屋外競技場 正面入口

今回の出場は、男子10km 桑原氏、遠藤氏

小田氏、大泉(善)氏、ハーフマラに大泉(修)氏、  
福田氏、石田氏、船戸ブチンが参加します

レースのあとの反省会やろう。

ザラトイログ



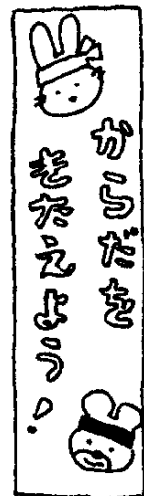
十月四日、少々肌寒い日でしたが、札幌マラソンが行われました。レク係の船戸氏の呼びかけで、毎日のトレーニングを積み、当日集まったのは六名で、10kmに小田・大泉(善)・遠藤が、ハーフマラソンに石田・福田・船戸が出場しました。

練習不足を心配する声もあったようですが、結果は全員完走! 記録もなかなかだったとか……。

来年は全員ハーフマラソンに! と息あがる参加者でした。(将来はホルルマラソンにでるゾ! といっている人までいるとか)。

今までも「いろんな事をして楽しもう」といいながらなかなか実現しなかった事が一つ出来ました。出場した人は皆充実した気持ちで一杯です。又、違う企画でもっとたくさんの方が参加し、楽しめるといいですね。

さて八月の例会の報告ですが、集まったのは、大泉(修)・船戸・桑原の三名でした。近況を話したあと、マラソンについて船戸氏より話しがあつて、八時三十分にはそれぞれ家路につきました。



「風に吹かれて」 保父修行物語

その十六

光星はとポツポ保育園 船戸 敬悦

井之頭公園の池のほとりにあるベンチに座り、池の水面を見つめていた。夕陽がしつとりとくれていきそうだった。初日の今日、井之頭の子ども達と接し、保母さん達と一緒に保育をして、あつというまの一日だった。「子ども達を見守っていくこと・・・」難しい言葉だ。つくづく、今までの今福での保育との違いにとまどっている自分を感じていた。子ども達のいきいきとした笑顔と出会えるから、子ども達とあそぶことが好きだから選んだこの仕事、おもいっきり子ども達と体ごとぶつかって、子ども達の元気に、無邪気さに、そしてやさしさに感動してきた今までと、これから東京でやっていける

だろうか？という不安に押しつぶされそうだった。公園の石畳の階段を登っていくと井之頭通りに出た。私は自転車をトコトコとおして歩いてきた。すると後ろから「センサー」と声がした。私が後ろをふりかえると、今日一緒に保育園でおいかけっこをしてあそんだコッコちゃんだった。お父さんの自転車のうしろにチヨコンと座って笑っていた。「お家この近くなんですか？」「そうなんです。」ということ、私は一緒にコッコちゃんと、お父さんと並んで歩いてきた。私は大阪からやってきたこと、生まれは北海道だということなど、いろいろなことを話しながら歩いてきた。話しながら、なんだか自分の気持ちがあんなにいいのを感じていた。お父さんは絵本を創る人だった。無から有を創るということの大切さ、貧乏のこと、コッコちゃんのこと

などいろいろなことを話してくれた。別れぎわ「先生がんばってくださいね」とお父さんにはげまされた。私は「はい。」と答えてコッコちゃん達とわかれて又トコトコと自転車を走らせて歩いていた。井之頭線のガードの下を通ると、ちょうどゴーゴーと電車が頭の上を通過していた。「この大都会にも、あんなに純粹に、そしてまじめに『物創りに』とりくんでいる人がいるんだなあ。」とおもうと、なんだか自分の心の中にも勇気がわいてくるのだった。悩んでいても始まらない、とにかく学ぶのだ。東京でそしてこの井之頭の池で、様々な人から、子ども達から心に決めて、公園のはずれにある二階建のアパートに私は帰った。

(次号につづく)

# 子育て日記

～男の育児 男も育児？～ その四

つばめクラブ 船山 利洋

父親として育児にたずさわる前に、

どうしてもやらなければならぬことがある。「出生届」を出すことである。

別に父親でなければいけないというでもないのだが

“木のうえに立って見る”

子どもを得てはじめてなれること、だから「親」である。

出生届を出す際に欠くことのできないのが、我が子の名前。生まれてから、いや、生まれる前からアーでもないコーでもないと悩み続けたもの。男の子だったら、女の子だったら、双子だったら……などと……。

今時は、超音波とかいうもので、母親の体内の子どもの様子も、又その際に男であるとか女であるとか、はたまた

た双子だとか三つ子だとかいうことも分かってしまうもののだが、幸いなことにと言ってもいいのか、我が家では生まれてくる迄、まさに謎、神秘であった。

しかし予感があった。《男だ》絶対に男の子だという確信めいたものですらあった。案の定生まれてきたのは男の子。そこで名付けである。いわゆる命名というやつで、普通半紙大の大きさのものに書家よろしく、墨字で達々と……。最近ではワープロ印字か。どちらにしても我が子の名前を書き、神棚などに飾っておくもの。

もう少し名前について言わせてもらうなら、我が家では第一子は男の子が生まれるとの予感からすでに四人目迄の名前が決まっていた（自分の勝手な思いこみだけだったのだが）。

船山という姓にふさわしく（どこが？）名は、

第一子、男の子で 航（ワタル）

第二子、これも男の子で 海（ヒロシ）

第三子、女の子で 美帆（ミホ）

第四子、これも女の子で 美波（ミ

ナミ）、と……。

しかし残念ながら第四子・美波の誕生はなく、それでも現在、航、海、美帆とみごとな程なのである（エッヘン）

親バカめ！

話を少し前にもどすが、第一子誕生で出生届を役所などにだされたことのある方ならお気付きのこととも思うが……、公的用紙の片すみに「前科」という文字が目についたのは、はたして私だけなのだろうか……（つづく）

# 男性保育者からの メッセージ



北海道の子どもと保父の会

これまでの歩み

北白石保育園

保父 瀬尾 昌彦

今回は、「保父の会」の歩みについて知って頂こうと思います。

政令改訂後、私が保育を始めた頃、札幌の保育園には5人程の保父がいましたが、間もなくそれぞれの事情で去っていく保父が相次ぎ、しばらく札幌は2人だけの状況が続きました。

そこで、互いに助け合い励まし合う必要を感じ昭和62年8月に15名の参加者を得て、「保父の会」を発足しました。

「北海道の子どもと保父の会」という名称は、全道の子どもたちの保育を広い視野で考えていこうということから名付けられ、親睦

と学習の集い、思想信条を乗り越えた集まり、参加者の意志で方向が決まる等、の基本原則で会則や役員が決定されました。

発足当初は、月1回道庁別館、現在は「かでる2・7」で例会を開き、年1回は総会を行っていました。例会も最初は、仕事のストレス発散の場、愚痴のこぼし合いや個人的な趣味の話が主でしたが後に、絵本を基に保育についての研究会、けんだま学習会、松田道雄の育児の百科や、ビデオ学習会会員の保育園の紹介や見学、保育実践報告討論会、男性保育者の需要条件の検討（北星の学生の卒論とタイアップしての調査研究）、講師を迎え、激遊びの研究会（NHKの関口氏）、そして新保育指針の勉強会等、多岐に亘って行ってきました。

また、大阪や名古屋の保父達の

「とらや帽子店」の中川氏、徳島大学の佐野先生との交流会も催されています。

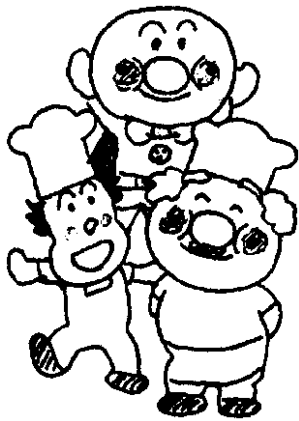
平成2年3月からは、札幌以外の会員とのつながりを密にするとともに同時に会の近況報告の「保父会ニュース」後に、「ほつぷ《保つ父》ステップJUMP!」に変更）会報を発行（現在15号まで）事務局は発寒ひかり保育園から北白石保育園に移り、現在に至っています。

活動も広報（会報作り）、研修（例会の企画）、レクリエーション、調査研究を分担して主体的にいろいろ張り切っているところですよ。

「保父」という名称は法律用語ではないのでその意味では微妙な存在ではありませんが、会員の立場や年令も広がりつつありますのでこれからの活動は幅が広がるのでは・・・と期待しているところです。現会員は男性しかいませんが、会の趣旨に賛同、または協力くださる個人及び団体であれば、男女の別はありません。

私保連の先生方にもご指導を仰ぎたいと思っておりますので是非園長先生、保母さん方も参加していただける会にと考えております。

機関誌「札幌市私保連」  
NO.108に掲載。



# 提案!

日頃より「ほつぷ・ステップ・JUMP!」をご愛読いただきましてありがとうございます。

突然ですが、VOL 十三より隔月発行になり、充実した内容にしようと考えて、個別にインタビューをしたり、原稿依頼をしています。どうしても書いてくれる人が決まっています。たくさんの会員の近況や思いを伝えきれない現状があります。

「会員一人一人が主体的に参加しよう!」と話したのは二月の総会でした。中でも例会と機関誌は継続して行っている活動です。例会参加と同様札幌市内の方も地方の方もどんどん意見や連絡を寄せて活発な活動にしていきたいでしょう。

例えば、神奈川男保連の機関誌は毎回テーマ(「父親と保父、男の子育て」「保育随想」など)を決めて各人の思いを交流しています。

どうでしょうか? 「ほつぷ・ステップ・JUMP!」でも何かできる事はないのでしょうか? 次号に向けて、少し意見を交流してみませんか。まってまっす!



二年に一度の全国集会在今年は十一月の二十二・二十三日に神奈川県で行なわれます。百人以上の保父が集まり、保育のことや現状や将来のことなどを熱く語りあいます。前は小田氏と西村氏が行きました。「是非今年は行きたい!」と思っているあなた、事務局まで連絡して下さい。会からの旅費の一部補助もあります。

新

## 保父男くん k.



## 近況報告

瀬尾昌彦氏に待望のBabyが誕生！

名前は佳奈美（かなみ）ちゃん。八月二十七日に誕生し、元気に成長しています。余りの可愛らしさに、今から「悪いムシ」がつくのを心配しているとか……。とにかくおめでとございませぬ。

VOL.十二以来の「子育て日記」を寄せてくれた船山氏からお知らせです。

転職しました。

四月から、人生勉強や修行のつもりではじめた造園の仕事にみきりをつけ、この十月から又、学童保育所の指導員をすることになりました。ヨロシク！

・職場 共同学童保育所つばめクラブ

東区北十九条東十四丁目38

1 704・0547

尚、自宅住所、は変わりませぬ。

VOL.十三でも紹介した、東京の西村氏から八月末に葉書が来、来年の札幌市職を受験する事や、「この一年最後のガンバリを見せるぜ！」という元気な決意が書かれていました。資格取得と無事就職出来るよう、励ましのエールを送ってあげましょう。ファイト！

## お知らせ

十月の例会は、十七日（土）六時半より北二西七「かでる2・7」で行います。先日、全国代表者会議に出席した船戸氏よりその報告を予定しています。そのあと時間とお金のある人は一杯やりましょう。

## 編集後記

今回の「ほつぷ・ステップ・JUMPI」は、連載物が二本もあって、久しぶりの全六頁となりました。帯広の情報や神奈川の男保連の新聞紹介など又、次回に掲載します。

日に日に寒くなっているこの頃ですが、天気の良い日はまだまだ外あそびが気持ちいいですね。

なんでも今年の冬は久し振りの「寒い冬」だとか……。年々、年をとるたびに寒さが体にこたえる私です。今のうちから体を鍛えておかなきゃ……。K

### 事務局

〒〇〇三 札幌市白石区北郷二条三丁目  
北白石保育園内

011・874・8222